

公益信託世田谷まちづくりファンド

第31回助成事業 審査講評

まちづくり活動部門

【1回目応募グループ】

< 2-1 SOPH >

- ・自分たちが経験した子育ての悩みとその乗り越え方を、同じような境遇に面している親たちに共有して幸せな親子を増やしたいという意気込みに感激しました。皆さんの活動から、子育てを楽しく思う気持ちが伝播していくことを期待します。専門的な活動への対価は本来あるべき適正価格で実施されることが望ましく、できるだけ早くビジネスとして自立されることを推奨します。

< 2-2 話そうじゃないか >

- ・コロナにより、改めて居住地である世田谷に目を向け、地域デビューを考える50代以上の勤め人は少なくありません。まずは同じ課題を認識する仲間をコアにしつつ、同年代を中心に多くの人々と繋がって世田谷の地域に新たな刺激を与えるような活動されていくことを期待しております。

< 2-3 世田谷マップDXプロジェクトチーム >

- ・様々な風景資産のマップをデジタル化する取組は、より多くの人を使いやすくなり、波及効果も高い、まさにDXと呼ぶにふさわしいテーマだと思います。一方、応募理由にあるようなイノベーションを呼び起こすには、仕組みの十分な検討が必要です。使い勝手や活用の仕方はもちろんですが、日々変化していくまちの情報の更新方法など、課題を整理して取り組んでください。

< 2-4 世田谷ネットワーク・レジリエンス —健康・環境・防災— >

- ・災害対策というのは日常の全てが対象となるので、どれも必要で実施したいと思われるのは分かります。ですが一つのテーマを地域の方々とじっくり深めることも重要だと思います。災害時には多様な人々と協同して乗り越えなくてはなりません。その辺のことも考慮しつつ素晴らしい研修会にしてください。

< 2-5 まほろばBACE >

- ・高齢者が自分の役割を自覚し、住み慣れた地域で暮らし続けられることまた若い世代との接点を持つことは、とても大切だと感じています。ワークショップ等では、高齢者の方がより自分の存在意義や役割を見出せるよう、例えばフィードバックが伝わる等、プログラム設計の工夫もできると良いと思います。今後の活動を通じて、「ほっこり」の場が地域に伝播していくことを期待しています。

< 2-6 特定非営利活動法人 CFF ジャパン >

- ・コロナ禍を機に、団体の特長を生かした活動をスタートされたとのことでは是非がんばってください！特に日本語が不得手な外国人親子は情報弱者になりやすく、支援の狭間に埋もれがちです。貴団体の活動を待っている子どもたちはきっといるはず。応援しています！

< 2-7 サステナキッチン >

- ・誰もが関わることができる料理を手がかりにして、知らない人たちがつながり、面白い活動がまちに広がっていくことを期待します。世田谷独自の料理文化につながっていくとよいと思います。

< 2-8 社会福祉法人せたがや檜の木会 上町工房 >

- ・地域からの理解を深めるためにパフォーマンスを取り入れるというアイデアは、地域の方々とより良いファーストコンタクトを演出できそうですね。メディアとの連携は、頻度だけでなく発信のタイミングなども作戦を練って展開できるとより良くなると思います。また、散歩パフォーマンスの時間や曜日をバラバラにするとより多くの人目に留まりますので、ぜひ検討してみてください。

< 2-9 @ and me ~nursing>

- ・民間の活動で期待されることは、行政施策でリーチできていない人々や行政施策ではまかなえていない上乘せ、横だしといったサポートだと思います。よって、今回ご提案のマタニティフェスだけではなく、フェスを契機に専門家として、継続的な取り組みをどのように展開されるのかについても、期待しております。

< 2-10 未来のカタチ 世田谷まちづくりプロジェクト>

- ・10代、20代の皆さんが、ほぼ同年代を対象に、駄菓子屋の経営などの地域に根ざした活動をしていくことを通じて、企画力ややり抜く力などを育てていくプログラムを展開している点が素晴らしいと思いました。このプログラムを体験した子どもたちが、地域に新たな風を起こしてくれることを期待しておりますし、それを寛容できる社会でありたいと思いました。

< 2-11 NPO法人親子サポート 一本の樹>

- ・地域の色々な方々やステークホルダーを巻き込みながら、一つ一つ丁寧に取り組んで進めているプロセスが素敵だなと思いました。是非、新たに出会った方々が発信した想いや考え等も大切に育ててほしいなと思います。今後も、子どもたちの絵やタイムスリップカフェの活動が、多世代交流や地域資源をつなぐツールとして発展していくことを期待しています。

< 2-12 ひきこもり地域家族会 世田谷はなみずきの会>

- ・昨年の活動から、更に活動へのニーズが深められたのではないかと思います。同様の悩みを抱える家族同士がつながり、支え合い・学び合うことで受容につながり、当事者との心のつながりへと向かう可能性を感じます。行政や関係団体とつながり、会の存在を地域に知ってもらい、その輪が広がって行くことに期待いたします。

< 2-13 太子堂ワークショップ準備室>

- ・新チームでの開催に当たってご苦労も多い中、うまく学校や地域、保護者を巻き込み一定の成果を上げたと思います。今後は、さらに活動の輪を広げ、太子堂小学校だけではなく、近隣の小学校とも連携した取り組みへと展開していくことを期待しています。

< 2-14 おやこフシギ発見クラブ >

- ・親子の関係を見つめなおす機会として演劇的手法を取り入れることは、効果の高い方法のひとつであると思います。一方、地域・まちづくりへのつながりにおいては、内側に閉じている印象でした。例えば、外でプログラムをしてみる、まちの紹介や地図づくりをする時に、他の活動グループと一緒にやってみるなど、次のステップでは、地域コミュニティと少し広くつながってみてください。

< 2-15 Hisae Style -walk & color->

- ・”歩く”という手軽なアプローチにちょっとした観光要素もあるコース設定など、多くの地域へ活動の輪が広がってほしい取り組みだと思います。一方、本当に外に出てきてほしい一人暮らしのシニアの方へどうやって参加を促すか、さらなる工夫を期待しています。